

植樹祭

～水源の森の
再生のために～

森を再生する会は、荒れたスギやヒノキの放置林を水源の森に再生するための活動をしています。今年も新城市作手において、ヒノキの放置林を間伐して広げた空地に、イタヤカエデやアカガシなどの広葉樹を植えます。



昨年植えたコシアブラは新芽が芽生えています。

シカの食害から守るために1本ずつ大切に獣害防止ネットをかぶせます。

令和5年11月12日(日)開催

指導者：エスペックミック株式会社代表取締役社長
森林インストラクター 吉野知明氏

～～～ 行程 ～～～

- 8:30 JA安祥支店(安城市安城町)
集合・出発
- 10:00 説明・植樹・歩道整備
- 12:15 芋煮会
- 13:30 道の駅つくで手作り村
にてお買い物
- 14:00 バス発車
- 15:40 JA安祥支店着・解散



参加費 300円(食事代込み、
当日徴収)

持ち物 飲み物・はし・お椀
・レジャーシート
(雨天時は雨具)

服装 長袖・長ズボン・運動靴
※急傾斜地も歩くので登山靴
がおすすめ

申込締切

令和5年10月31日(火)

主催 NPO法人森を再生する会

【申し込み先】

電話 090-1270-6851 汐満(しおみつ)

Eメール lll-lw@xj.commufa.jp



ホームページ



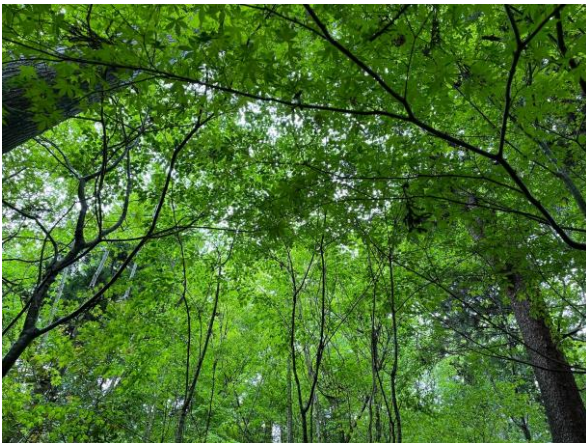
インスタグラム

なぜ山に木を植えるのか

日本の国土の2/3を占めると言われる森林ですが、その内の4割が針葉樹が中心の人工林で、人工林の内の多くが放置されています。放置された人工林は次のような課題があります。

- ・日照不足で市場価値の高い木材が育たない。
- ・針葉樹のみでは土壌が弱くなり、土砂災害の危険性が増す。
- ・十分に育たない針葉樹中心の放置林は地球温暖化の原因となるCO₂吸収力が減少する。
- ・下流域に栄養豊富な水が供給されず、赤潮発生などの被害が出ている。

このような現状が広く認識されるようになり、日本各地で間伐事業が推進されるようになってきていますが、間伐のみでは不十分です。現在、山間部ではシカの食害が深刻になってきており、放っておいては新たに樹木が成長してきません。また、クマ笹に覆われてしまう場合もあり、そうなれば下草が育ちません。



20年近く前に植樹した設楽町田峯の森林。このころはシカの食害はあまりなく、立派な森に育ちました。



数年前に植樹した設楽町納庫の森林。獣害防止ネットを施していますが、しっかり間伐しているため、日差しを十分に浴びて順調に育っています。

私たち森を再生する会は、20年前の法人設立から毎年欠かさずに植樹祭を開催してきました。この間、41種、約11000本もの広葉樹を植えてきました。木の実が多く動物や昆虫を呼び寄せ、そのフンや落ち葉が土壌を豊かにし、保水機能を高め、下流域に豊かな実りをもたらしてくれる、そんな豊かな森づくりをめざしています。

森を再生する会 会員募集中

毎月第3土曜日に作手の山林で活動しています。
見学・体験随時受け付けています。

電話 090-1270-6851 汐満(しおみつ)
Eメール lll-lw@xj.commufa.jp



ホームページ



インスタグラム